

## 楽団紹介

### シーガル横浜



■代表 堤通能 ■発足 1999年 ■活動拠点 横浜市菊名 ハタ楽器ホール ■指導者・指揮者 平本勝義

#### 1 発足15周年

菊池富士男氏（初代表）の尽力と関係者のご支援に記念第6回定期演奏会を開催する運びとなり、現在その準備の追い込みに入っています。

#### 2 音づくり

現在の団員は18名。Vn(2) 篠笛(1) Fl(4) Cl(2) BCl(1) ASax(2) TSax(2) Gt/Gro/Acc(1) Kb(2) Drs(1)の編成です。（団員大募集中）編成に応じた編曲・指導で、「シーガルならではの音づくりを」と苦心頂いているのが平本先生です。団員も正確なチューニングとバランスのとれたアンサンブルで答えるべく努力しています。

#### 3 会の運営

重要事項を決定する総会のほかに、3ヵ月ごとに役員・パートナーで企画会議を開催し、時々の課題について意見集約をしています。毎回のレッスン後の先生を交えたお茶会は良い懇親の場になっています。

#### 4 選曲

練習曲の選定は団員の投票を経て、先生と相談し購入楽譜を決めています。クラシック、ポップス、JC日本のC、JP日本のP、の4区分でバランス良く選定します。

#### 5 演奏会

隔年交互の連盟全国大会出演と定期演奏会のほか、福祉施設訪問演奏、地区文化協会コンサート参加、地域まつり行事での演奏などが現在の演奏会です。年末には団内ミニコンサートを開催、ソロ又はアンサンブルで演奏を披露し合い1年を締めくくります。

### 取手シニアアンサンブル 代表 宮崎 正

私達、取手シニアアンサンブルが最初に発足を致したのは平成24年4月の事です。発足日には10名団員として来て下さいましたが、3ヶ月後残りましたのは3名です。

ご家庭の事情、練習会場の利便性、たくさん問題はありました。しかも残った3名は、私もそうですが楽器の演奏が下手です。それを見かねた、岡村さんが「よし、こうなったら1年間特訓だ」とおっしゃって下さり、練習場所を千葉のある調理室に変え、1年間みっちり教えて戴きました。それでも覚えの悪い私達でしたが、どうにか唱歌・抒情歌を何曲か演奏出来るようになり、25年、再発足2ヶ月前に小規模ながら外からギターの方をお願いをして演奏会を致すことになりました。演奏が終わった後、お一人のお年寄りの方に「その、楽器はなんていうんだ～」と聞かれました。使っていた楽器はヴァイオリン、マンドリン、ギター、チェロでしたが、岡村さんが分かりやすく説明をして下さり、それから私達は曲の間に楽器の紹介を入れるようにしたのでした。その年の6月にあらたに場所は藤代公民館、視聴覚室で発足をいたすことになりました。

団員の確保に飢えていた私達は、見学に来てくださった方への入団案内と会費の徴収の早かったこと疾風のようなものでした。今でもある団員の方は「いつの間にか入団をしていたんだよね～」と云います。



12月8日に、記念すべき発足記念コンサートを致すことが出来ました。只今男性10名・女性15名、計25名の取手シニアアンサンブルとなり、3ヶ月に一度のペースで出前演奏をしています。今後2年に一度位の定期演奏会を行いたいと思っています。

### 北の杜シニアアンサンブル

■指導：五十嵐 淳先生 ■団長：芹澤昭仁

私達の楽団は東京の区部と多摩地区が接している地域の調布、杉並、他に八王子、大宮などに住んでいる比較的高年齢で弦楽器演奏を楽しんでいるメンバーが集まっています。団員の平均年齢は後期高齢者年齢を超え、おそらく全国シニアアンサンブル連盟加盟楽団では最高齢です。Vn 8名、Va 2名、Vc 2名の編成の計12名ではつらつと音楽演奏を楽しんでいます。楽団は昨年の4月に初顔合わせをして5月に楽団結成をし、9月に宇都宮で開催されました全国大会で演奏をしました。わずか8回の練習で全国大会での演奏ができたのは音楽演奏を長く楽しんできた団員が多かったためだと思っています。



しかし、高年齢の団員が多いので宇都宮での演奏では理解者のサポートを受けつつでもありました。ある団員は早朝に高い血圧になることから家族と一緒に宇都宮で前泊をしてゆっくり会場入り、別の団員はチェロを電車で運ぶための乗車また乗り換えは体力的に無理がありましたので音楽の友人がチェロを運んでくれて、その友人は演奏を会場で堪能していただいたりなどなどのエピソードがありました。

練習は月二回程度で、主な練習場所は調布市富士見町の富士見児童館です。この近辺には武蔵野の面影を今も残す雑木林、調布飛行場が見渡せる「武蔵野の森公園」、在京のサッカーホームグラウンドにもなっている「味の素スタジアム」、蕎麦で有名な深大寺、ゲゲゲ散策地区があります。この地域は、戦後この飛行場を中心にいち早く米軍が使うことになり、米軍は当時の日本の野菜肥料を好みませんでしたので、日本の水耕栽培発祥の地でもあります。楽団創設の核となったのは、第11回千葉大会にて当時82歳で大活躍をされたボニーかつしかの二川大先輩の心意気でした。楽団の特徴です。女性が多く、弦の音色が女性の感性と結び付くのでしょう。そして高年齢シニア、まさに青春の北の杜シニアアンサンブルです。